

学校沿革史

平成16年度～令和2年度

1. 学校の創立

平成15年11月28日「京都市不登校生徒学習支援特区」に認定される。

平成16年10月1日「京都市立洛風中学校」として開校する。

平成17年7月6日 不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校に指定される。

元京都市立初音中学校の校舎を改築し、京都市教育相談総合センターこどもパトナの一部施設を利用する。

2. 通学域の設定

京都市の区域内

(八幡市八幡町。八幡樋ノ口及び川口高原並びに久御山大字大橋辺を含む)

3. 学校教育の基本方針等に関する事項

◇教育の目標

「仲間とともに、自分が納得して学び直す、心を開いて遊び、語り合う、
自信を取り戻す、学習の実践」

◇生徒目標

- ・主体的に生きる
- ・自立できる
- ・自己実現できる
- ・「まなぶ」「あそぶ」「みつめる」「みつける」「つながる」の5つの言葉を大切にする

平成16年度 重点目標

- (1)学ぶ意欲・元気(エネルギー)の回復への支援体制の確立
 - ・教科の新設や統合を初めとする柔軟で特色ある教育課程を編成する。
 - ・少人数での学習を基本として、一人一人の段階に応じた、きめの細かな学習指導を行い基礎基本の定着を図る。
- (2)集団の中で自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の確立
 - ・スクールカウンセラーを中心とする充実した教育相談体制、学生をはじめとするボランティアの重点配置など、一人一人の子どもの立場に立った心のケアを実践する。
 - ・保護者の理解と変容とそれを支える体制の確立をする。そのため、保護者がかかえる不安や悩み、経験を語り合い、共有できる場としての「保護者会」等を実施し、保護者の前向きで具体的ななかかわりを通して、保護者の担うべき役割を明確にする。
- (3)学校から社会へ通じる道(本当にやりたいこと)探しへの支援体制の確立
 - ・民間の団体や大学などと連携した体験活動、京都の特性を生かした芸術・ものづくりなどの多様な創造的な活動を実施する。
 - ・職場体験を実施する。

平成17年度 重点目標

(1)学ぶ意欲の向上及び学習習慣の定着へむけての支援体制の強化

- ・基礎基本の定着を目指し、落ち着いた学習環境をつくる。
- ・個に応じた指導を工夫する
- ・個を生かす評価を工夫する

(2)集団の中での自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の確立

- ・一人一人の子どもの立場に立った生徒理解、心の通った指導を徹底する。
- ・スクールカウンセラーを中心とする教育相談体制及び生徒指導体制の機能を高める。
- ・「自分も相手もみんなも大切にする」指導を徹底し、ヒューマン・タイムの充実などよりよく、ほどこよい人間関係づくりの工夫をする
- ・保護者の理解と変容と、それを支える体制の確立をする。そのため、保護者が抱える不安や悩み、経験を語り合い、共有できる場としての「カウンセラーを囲む会」等を実施し、保護者の前向きで具体的ななかかわりをとおして、保護者の担うべき役割を明確にする。

(3)学校から社会へ通じる道(本当にやりたいこと)探しへの支援体制の確立

- ・体験活動、京都の特性を活かした芸術・ものづくりなどの多様な創造的な活動を実施する。
- ・個に応じた進路指導の工夫
- ・健康教育や性教育の充実

平成18年度 重点目標

(1)学ぶ意欲の向上及び学習習慣の定着へむけての支援体制の強化

- ・基礎基本の定着を目指し、落ち着いた学習環境をつくる。
- ・個に応じた指導を工夫する
- ・個を生かす評価を工夫する

(2)集団の中での自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の充実

- 生徒の問題行動や課題を、個人の性格や意思・努力によるものではなく「困りごと」であるというふうに捉えることができる「見る目・感性」を大切にする。
- スタッフ全員が、それぞれの生徒の担当であるという意識で生徒と関わり、多くのスタッフの目で、その生徒を多面的に捉え、率直に意見交換することを大切にする。
- その場面にあったよい表情で子どもを見つめ、親身になって話を聴き、生徒一人一人とのふれあいを大切にしたい、適切ななかかわりをする。
- ・一人一人の子どもの立場に立った生徒理解、心の通った指導を徹底する。
- ・スクールカウンセラーを中心とする教育相談体制及び生徒指導体制の機能を高める。
- ・「自分も相手もみんなも大切にする」指導を徹底し、ヒューマン・タイムの充実などよりよく、ほどこよい人間関係づくりの工夫をする
- ・保護者の理解と変容と、それを支える体制の確立をする。そのため、保護者が抱える不安や悩み、経験を語り合い、共有できる場としての「カウンセラーを囲む会」等を実施し、保護者の前向きで具体的ななかかわりをとおして、保護者の担うべき役割を明確にする。

(3)学校から社会へ通じる道(本当にやりたいこと)探しへの支援体制の充実

- ・体験活動, 京都の特性を活かした芸術・ものづくりなどの多様な創造的な活動を実施する。
- ・個に応じた進路指導の工夫
- ・健康教育や性教育の充実

平成19年度 重点目標

(1)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする。

学力実態の把握と身につけるべき基礎学力を明らかにする。

家庭学習の習慣化に取り組む。

(2)心と体の健康維持、増進に取り組む。

- ・正しい食事や運動、睡眠など調和のとれた生活習慣の確立を図る。ふれあいを大切にし心の安定を図る。
- ・肥満や痩せあるいは昼夜逆転等の改善のために、節度を守り節制を心がけた正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた望ましい生活習慣の確立を図る。
- ・正しい情報モラルを身につける学習や性教育を推進するなど、個人及び社会の一員としてのあり方、健康で安全な生活を考える取組を充実させる。

(3)保護者との連携を密にし、互いに支え合える体制づくりを目指す。保護者を支えるとともに、互いに連携を深める。

(4)集団の中で自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の充実

- 生徒の問題行動や課題を、個人の性格や意思・努力によるものではなく「困りごと」であるというふうに捉えることができる「見る目・感性」を大切にする。
- スタッフ全員が、それぞれの生徒の担当であるという意識で生徒と関わり、多くのスタッフの目で、その生徒を多面的に捉え、率直に意見交換することを大切にする。
- その場面にあったよい表情で子どもを見つめ、親身になって話を聴き、生徒一人一人とのふれあいを大切にしたい、適切なかわりをする。
- ・安全安心の教育環境の構築のため、創夢委員会や学年会、ミーティングの持ち方を工夫し、教職員スタッフの協力体制を強化すると共にSCや保護者等との連携を深める。
- ・ヒューマン・タイムの時間を充実させるため、1・2年と3年の発達の段階や実態に合わせて、系統的に取り組めるように学年体制を導入する。また、週2時間ロング・ヒューマン・タイム及び毎日のショート・ヒューマン・タイムを連動させるなど、生徒の状況に即した人権教育、性教育、情報モラル学習等のテーマを明確にした計画的な取組を推進する。
- ・「誰かの役に立つ」ということを実感することにより、自己肯定感や他人に共感し人間関係を築く力を培うため、洛風中学校をよりよくする会や生徒の係活動を充実させるなど生徒の自主的な活動の充実を図る。
- ・話し合い活動や共同作業を通じて仲間とのよりよい関係づくりを体験するとともに、多様な体験活動とさまざまな人や自然との交流等を通して視野を広げ、自ら自分の生き方を創造する能力の基礎を培い、豊かな人間性と社会性を育む。

平成20年度重点目標

- (1)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする
 - ・「学力定着テスト」や「学習確認プログラム」を活用した学力実態の把握。
 - ・身につけさせるべき基礎学力を明らかにし、定着をはかる。
 - ・家庭学習の習慣化を図る。
 - ・「学力向上チーム」の取組(学力向上プランの作成など)を進める。
- (2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う
 - ・心と体の健康の維持、増進に取り組む。
 - ・肥満等の改善のために正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活習慣の確立を図る。
 - ・正しい情報モラルを身につける学習を推進する。
- (3)保護者との連携を密にし、互いに支え合える体制づくりをめざす
 - ・保護者を支えるとともに互いに連携を深める。
 - ・学校評価とよりよい学校づくりを進める。
- (4)集団の中で自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の充実
 - 生徒の問題行動や課題を、個人の性格や意思・努力によるものではなく「困りごと」であるというふうに捉えることができる「見る目・感性」を大切にする。
 - スタッフ全員が、それぞれの生徒の担当であるという意識で生徒と関わり、多くのスタッフの目で、その生徒を多面的に捉え、率直に意見交換することを大切にする。
 - その場面にあったよい表情で子どもを見つめ、親身になって話を聴き、生徒一人一人とのふれあいを大切にしたい、適切なかかわりをする。
 - ・安全安心の教育環境の構築のため、創夢委員会や学年会、ミーティングの持ち方を工夫し、教職員スタッフの協力体制を強化すると共にSCや保護者等との連携を深める。
 - ・ヒューマン・タイムの時間を充実させるため、1・2年と3年の発達段階や実態に合わせて、系統的に取り組めるように学年体制を導入する。また、週2時間ロング・ヒューマン・タイム及び毎日のショート・ヒューマン・タイムを連動させるなど、生徒の状況に即した人権教育、性教育、情報モラル学習等のテーマを明確にした計画的な取組を推進する。
 - ・「誰かの役に立つ」ということを実感することにより、自己肯定感や他人に共感し人間関係を築く力を培うため、洛風中学校をよりよくする会や生徒の係活動を充実させるなど生徒の自主的な活動の充実を図る。
 - ・話し合い活動や共同作業を通じて仲間とのよりよい関係づくりを体験するとともに、多様な体験活動とさまざまな人や自然との交流等を通して視野を広げ、自ら自分の生き方を創造する能力の基礎を培い、豊かな人間性と社会性を育む。

平成21年度重点目標

- (1)不登校を経験した生徒のためのよりよい学校づくりに向け、互いに支え合える体制づくりを推進する。
 - ◇教職員スタッフは、みんなで支え合うチームワークを軸に、常に互いの思いを汲み取り、

生徒へのきめの細かい指導に役立てる。

◇保護者を支えるとともに互いに連携を深める。

◇よりよい学校づくりのために、学校評価を活用する。

(2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。

◇心と体の健康の維持、増進に取り組み、安心できる学校生活の充実を図る。

◇正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活習慣の確立を図る。

◇正しい情報モラルを身につける学習を推進する。

(3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

◇日々の学習指導及び評価や「学力定着テスト」「学習確認プログラム」等を活かして、生徒の学力の実態を把握し、身につけさせるべき基礎学力の定着を図る。

◇家庭学習の習慣化を図る。

◇「学力向上チーム」の取組(学力向上プランの作成など)を進める。

*学習指導要領の改訂に伴う、移行措置などに対応するために本校の教育課程の見直しを行う。

(4)集団の中で自分をみつめる人間関係(つながり)づくりへの支援体制の充実

□生徒の問題行動や課題を、個人の性格や意思・努力によるものではなく「困りごと」であるというふうに捉えることができる「見る目・感性」を大切にする。

□スタッフ全員が、それぞれの生徒の担当であるという意識で生徒と関わり、多くのスタッフの目で、その生徒を多面的に捉え、率直に意見交換することを大切にする。

□その場面にあったよい表情で子どもを見つめ、親身になって話を聴き、生徒一人一人とのふれあいを大切にしたい、適切なかわりをする。

・安全安心の教育環境の構築のため、創夢委員会や学年会、ミーティングの持ち方を工夫し、教職員スタッフの協力体制を強化すると共にSCや保護者等との連携を深める。

・ヒューマン・タイムの時間を充実させるため、1・2年と3年の発達の段階や実態に合わせて、系統的に取り組めるように学年体制を導入する。また、週2時間ロング・ヒューマン・タイム及び毎日のショート・ヒューマン・タイムを連動させるなど、生徒の状況に即した人権教育、性教育、情報モラル学習等のテーマを明確にした計画的な取組を推進する。

・「誰かの役に立つ」ということを実感することにより、自己肯定感や他人に共感し人間関係を築く力を培うため、洛風中学校をよりよくする会や生徒の係活動を充実させるなど生徒の自主的な活動の充実を図る。

・話し合い活動や共同作業を通じて仲間とのよりよい関係づくりを体験するとともに、多様な体験活動とさまざまな人や自然との交流等を通して視野を広げ、自ら自分の生き方を創造する能力の基礎を培い、豊かな人間性と社会性を育む。

平成22年度重点目標

(1)不登校を経験した生徒のためのよりよい学校づくりに向け、互いに支え合える体制づくりを推進する。

- ・教職員スタッフは、みんなで支え合うチームワークを軸に、常に互いの思いを汲み取り、生徒へのきめの細かい指導に役立てる。
- ・育ち、学び合う環境をよりよく保てるよう、教職員スタッフ自らが安心できる言葉(温かく・毅然とした)のコミュニケーションを実践するとともに、生徒の言語活動の充実を図る。
- ・保護者を支えるとともに互いに連携を深めるとともに、よりよい学校づくりのために、学校評価を活用する。
- (2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。
 - ・心と体の健康の維持、増進に取り組み、安心できる学校生活の充実を図る。
 - ・正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活習慣の確立を図る。
 - ・正しい情報モラルを身につける学習を推進する。
- (3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。
 - ・「学力向上チーム」の取組(学力向上プランの作成など)を進め、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確に伝え合い、学ぶ手だての工夫を共有できる協力的な「学び」を推進する。
 - ・日々の学習指導及び評価や「学力定着テスト」「学習確認プログラム」等を活かして、生徒の学力の実態を把握し、身につけさせるべき基礎学力の定着を図る。
 - ・家庭学習の習慣化を図る。
 - ・学習指導要領の改訂に伴う、移行措置などに対応するために本校の教育課程の見直しを行う。

平成23年度重点目標

- (1)不登校を経験した生徒のためのよりよい学校づくりに向け、より高い人権意識に基づき、互いに支え合える体制づくりを推進する。
 - ・教職員スタッフ一人ひとりは、よりよい仲間づくりのために、「互いに育ち、学び合う環境」をよりよく保てるよう、同和問題をはじめとする人権教育にかかわる基本的な問題や課題に対する認識を新たにし、深められるようにする。
 - ・教職員スタッフ一人ひとりは、常に「今、目の前の生徒にとって求められる態度の温さや厳しさ」について心と頭と体を使って考え、行動し、互いに「思いを伝え、尋ね、確かめ合う」ことを実践し、生徒へのきめの細かい指導に役立てる。
 - ・教職員スタッフ一人ひとりは、学校評価や日頃の保護者との連絡・交流の機会を有効に活用し互いに連携を深めるとともに、保護者のよき理解者としての支えになる。
- (2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。
 - ・ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、確かな人権意識を育てる指導の創意・工夫を徹底するとともに、生徒の言語活動の充実を図る。
 - ・洛風をよりよくする会の取組を中心に、日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図る。
 - ・安心できる学校生活の充実を図るため、心と体の健康の維持、増進に取り組み、正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活習慣の確立、正しい情報モラルを身につける学習を推進する。

(3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

- ・「学力向上チーム」の取組(学力向上プランの作成など)を進め、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確に伝え合い、学ぶ手だての工夫を共有できる協力的な「学び」を推進する。
- ・日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、生徒の学力の実態を把握し、身につけさせるべき基礎学力の定着を図る。
- ・家庭学習の習慣化を図る。

平成24年度重点目標 「きく・はなす・つながる」

(1)不登校を経験した生徒のための学校づくりに向け、互いに人権感覚を磨き、支え合える、よりよい体制づくりを推進する。

- ・教職員スタッフ一人ひとりは、「互いに育ち、学び合う環境」をよりよく保ち、同和問題をはじめとする人権教育にかかわる基本的な問題や課題に対する認識を深め、よりよい仲間づくりを推進する。
- ・教職員スタッフ一人ひとりは、常に「今、目の前の生徒にとって求められる態度の温かさや厳しさ」について心と頭と体を使って考え、行動し、互いに「思いを伝え、尋ね、確かめ合う」ことを実践し、生徒へのきめの細かいかわりや指導に役立てる。
- ・教職員スタッフ一人ひとりは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し互いに連携を深めるとともに、保護者のよき理解者としての支えになる。

(2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。

- ・ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、指導の創意・工夫を行い、生徒の言語活動の充実を図るとともに、確かな人権感覚を育てる。
- ・洛風をよりよくする会の取組を中心に、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図り、自己肯定感を高める。
- ・安心できる学校生活の充実を図るため、心と体の健康の維持、増進に取り組み、正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活習慣の確立、正しい情報モラルを身につける学習を推進する。

(3). 基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

- ・「学力向上委員会」の取組を進め、学ぶ手だての工夫を共有できる協力的な「学び」を推進し、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にする。
- ・日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、生徒の学力の実態を把握し、基礎学力の定着を図る。
- ・個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、家庭学習の習慣化を図る。
*本校の教育課程を基本に、新学習指導要領に対応するための工夫をする。

平成25年度重点目標 「適材適所」・「縦横無尽」・「切磋琢磨」

(1)不登校を経験した生徒のための学校づくりに向け、互いに人権感覚を磨き、支え合える、よりよい体制づくりを推進する。

◇よりよい仲間づくりの発展と発信

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かし合う、「互いに育ち、学び合う環境」をよりよく保つとともに、これまでの教育活動の課題を整理し、成果を発信する。

◇生徒へのきめ細かいかわりと指導

教職員スタッフ、「今、目の前の生徒にとって求められる態度の温かさや厳しさ」について心と頭と体を使って考え、行動し、互いに思いを伝え、尋ね、確かめ合うことを徹底する。

◇保護者への理解と支え

教職員スタッフは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し、保護者への理解を深め、支援する。

(2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の醸成

ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、指導の創意・工夫を行い、確かな人権感覚に基づいた言語活動の充実を図る。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図り、自信を取り戻す取組を進める。

◇生活習慣の確立、正しい情報モラルの定着

正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた心と体の健康の維持、増進に取り組むとともに、正しい情報モラルを身に付け、だれもが安心できる学校生活を守る。

(3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

◇学ぶ意欲の高揚

身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にし、「学力向上委員会」の取組を進めるなどお互いに切磋琢磨し、納得できる授業の充実を図り、学びたい気持ちを高める。

◇基礎学力の定着

日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、一人一人の生徒の学力の実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫する。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、少しでも自学に取り組み、自分に見合った進路展望につながる学習の習慣化に取り組む。

*本校の教育課程を基本に、新学習指導要領に対応するための工夫をする。

平成26年度重点目標 「心機一転」そして「貢献」

(1)不登校を経験した生徒のための学校づくりに向け、互いに人権感覚を磨き、支え合える、よりよい体制づくりを推進する。

◇よりよい仲間づくりの発展と発信

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かし合う、「互いに育ち、学び合う環境」をよりよく保つとともに、これまでの教育活動の課題を整理し、成果を発信する。

◇生徒へのきめ細かいかわりと指導

教職員スタッフは、「今、目の前の生徒にとって求められる態度の温かさや厳しさ」について心と頭と体を使って考え、行動し、互いに思いを伝え、尋ね、確かめ合うことを徹底する。

◇保護者への理解と支え

教職員スタッフは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し、保護者への理解を深め、支援する。

(2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の醸成

ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、指導の創意・工夫を行い、確かな人権感覚に基づいた言語活動の充実を図る。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図り、自信を取り戻す取組を進める。

◇生活習慣の確立、正しい情報モラルの定着

正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた心と体の健康の維持、増進に取り組むとともに、正しい情報モラルを身に付け、だれもが安心できる学校生活を守る。

(3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

◇学ぶ意欲の高揚

身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にし、「学力向上委員会」の取組を進めるなどお互いに切磋琢磨し、納得できる授業の充実を図り、学びたい気持ちを高める。

◇基礎学力の定着

日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、一人一人の生徒の学力の実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫する。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、少しでも自学に取り組み、自分に見合った進路展望につながる学習の習慣化に取り組む。

平成27年度重点目標 「不易と流行」…息長く助け合う

*洛風の根本的な考え方・方向性にたち、現状に柔軟に対応する。

(1)不登校を経験した生徒のための学校づくりに向け、互いに人権感覚を磨き、支え合える、よりよい体制づくりを推進する。

◇よりよい仲間として協働する

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かし合い、「互いに育ち、学び合う環境」をよりよく保つとともに、生徒の現状に適應できるように、息長く助け合う。

◇生徒への発達段階に応じたかわりと指導を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前の生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを伝え、尋ね、確かめ合い、持続性のある対応を探る。

◇保護者への理解と支えを深めると共に自立を促す

教職員スタッフは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し、保護者への理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を求める。

(2)「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進する。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土を醸成する

ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、指導の創意・工夫を行い、確かな人権感覚に基づいた言語活動及び道徳の充実を図る。また、学び遊ぶ環境の整備を工夫する。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図り、自信を取り戻す取組を進める。

◇生活習慣の確立、正しい情報モラルを定着させる

正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた心と体の健康の維持、増進に取り組むとともに、正しい情報モラルを身に付け、だれもが安心できる学校生活を守る。

(3)基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする取組を推進する。

◇自ら学ぶ意欲を高める

身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にし、「学力向上委員会」の取組を進めるなどお互いに切磋琢磨し、納得できる授業の充実を図り、自ら学びたい気持ちを高める。

◇基礎学力を定着させる

日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、一人一人の生徒の学力の実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫する。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、少しでも自学に取り組み、自分に見合った進路展望につながる学習の習慣化に取り組む。

平成28年度重点目標 「粋」と「楽」

*「粋」…環境・かかわりの器、ルール・マナーを整える

*「楽」…安心、あそび(幅・ゆとり・楽しみ)を大事にする

1. 不登校を経験した生徒のための学校として、「他立的自律」「自己指導力」の考え方に基づき、「粋」と「楽」を共有し、安心して支え合えるよりよい体制を創る。

◇よりよい仲間として協働できる「粋」と「楽」を意識する

教職員スタッフは、「互いに育ち、学び合う環境」を保つとともに、各自の持ち味を最大限に生かし合える環境(「粋」と「楽」)を創る。

◇生徒への発達段階に応じたかかわりと指導を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前の生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを伝え、尋ね、確かめ合い、持続性のある対応を探る。

◇保護者への理解と支えを深めるとともに自立を促す

教職員スタッフは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し、保護者への理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を求める。

2. 「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進し、「自ら律する力」を高める。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土を醸成する

ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、指導の創意・工夫を行い、確かな人権感覚に基づいた言語活動及び道徳の充実を図る。また、学び遊ぶ環境の整備を工夫する。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に行動する場の充実を図り、自信を取り戻す取組を進める。

◇生活習慣の確立、正しい情報モラルを定着させる

正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた心と体の健康の維持、増進に取り組むとともに、正しい情報モラルを身に付け、だれもが安心できる学校生活を守る。

3. 「自ら学ぶ力」を高め、基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする。

◇自ら学ぶ意欲を高める

身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にし、「学力向上委員会」の取組を進めるなどお互いに切磋琢磨し、納得できる授業の充実を図り、自ら学びたい気持ちを高める。

◇基礎学力を定着させる

日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、一人一人の生徒の学力の実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫する。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、少しでも自学に取り組み、自分に見合った進路展望につながる学習の習慣化に取り組む。

平成 29年度の重点目標 「粹」と「楽」、「学」

＊「粹」…環境・かかわりの器、ルール・マナーを整える

＊「楽」…安心、あそび(幅・ゆとり・楽しみ)を大事にする

＊「学」…幅広くチャレンジする学びで自信を高める

1. 様々な困りごとを持つ生徒の役に立つ学校として、「他立的自律」「自己指導力」の考え方に基
づいた教育活動を推進する。

◇教職員スタッフは、よりよい仲間として協働し、「粹」「楽」「学」の土台を強化する

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かし、互いに学び合い、切磋琢磨する関係や教育環境の充実を図る。

◇生徒の発達段階に応じたかかわりと指導を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前の生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを伝え、尋ね、確かめ合い、持続性のある対応を共有する。

◇保護者への理解と支えを深めるとともに自立を促す

教職員スタッフは、学校評価や日頃の保護者との交流の機会を有効に活用し、保護者への理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を求める。

2. 「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進し、「自ら律する力」を高める。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の伝統をつなぐ

確かな人権感覚に基づいた教育活動を発展させ、安心して学び遊べる環境を守るとともに、ヒューマン・タイムを中心に各教科及び領域の中で、言語活動及び道徳の充実を図る。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や日々の生活の中で生徒自らが主体的に、納得して行動する場を継承し、自信と勇気、チャレンジする意識を高める。

◇生活習慣の確立、正しい情報モラルを定着させる

正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた心と体の健康の維持、増進に取り組むとともに、正しい情報モラルを身に付け、だれもが安心できる学校生活を守る。

3. 「自ら学ぶ力」を高め、基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする。

◇自ら学ぶ意欲を高める

日々の学習指導及び評価や「学習確認プログラム」等を活かして、一人一人の生徒の学力の実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫し、自ら学ぶ意欲を高める。

◇基礎学力を定着させる

学力向上委員会や研修などで、授業や対応の工夫を共有できる機会を増やし、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にした授業の充実、個々の学力の向上を目指す。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、自分に見合った進路展望につながる自学・家庭学習の習慣化に取り組む。

平成30年度の重点目標 「自らをみつめる枠組づくり」

＊「自ら学ぶ力」 …やりたい気持ち・感じる力を育てる

＊「自ら律する力」 …仲間を認める・仲間に認められる力を育てる

＊「自らを信じる力」…幅広くチャレンジする学びで自信を高めさせる

1. 様々な困りごとを持つ生徒の役に立つ学校として、「他立的自律」「自己指導力」の考え方に基づいた教育活動の推進。

◇よりよい仲間として協働し、子ども達の学びの土台を強化する

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かすとともに協力して、互いに学び合い、切磋琢磨する関係や教育環境の充実を図る。

◇生徒の発達段階に応じたかかわりと支援を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前にいる生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを確かめ合い、持続性のある対応を共有する。

◇保護者への理解と支えを深めるとともに自立を促す

教職員スタッフは、学校評価や日々の保護者との丁寧な交流を通して、保護者自身の困りへの理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を促す。

2. 「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進し、「自ら律する力」を高める教育の充実。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の伝統をつなぐ

確かな人権感覚に基づいた教育活動を発展させ、安心して学び・遊べる環境(枠組み)を守る

とともに、「ヒューマン・タイム」を中心に各教科及び領域の中で、対話を通じて共に学び合い、お互いの生き方や価値観の違いを認め合う教育を実践する。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や取組、日常の生活の中で、生徒自らが主体的に、納得して行動する場を継承し、自信と勇気、チャレンジする意識を高める。

◇生活習慣の確立させる

心身の健康の保持増進を目指して、正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活の維持、増進に取り組む。

◇正しい情報モラルを定着させる

不用意な発信等により他者を傷つけないように、正しい判断力を身につけさせるとともに、誰もが安心できる学校生活を守る。

3. 「自ら学ぶ力」を高め、基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする教育の推進。

◇自ら学ぶ意欲を高める

日々の学習指導、評価や「学習確認プログラム」等を活かし、一人一人の生徒の学力や学びの実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫し、生徒自らが学ぶ意欲を高める。

◇基礎学力を定着させる

学力向上委員会や研修等で、授業の進め方や対応の工夫を共有できる機会を増やし、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にした授業の充実を図る。また、個々の学力の向上にむけた手だけの工夫をする。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、生徒一人一人が自分に見合った進路展望につながるよう家庭学習による自学自習の習慣化を図る。

平成31年度の重点目標 「自己指導の力を高める」

- ・自己をありのままに認める心を育てる。
- ・言語活動を充実させ、自らの言葉で語ることでできる言語力を育てる。
- ・社会の中で自分らしく生きることができる力を育てる。

1. 様々な困りごとを持つ生徒の役に立つ学校として、「他立的自律」「自己指導力」の考え方に基づいた教育活動の推進。

◇よりよい仲間として協働し、子ども達の学びの土台を強化する

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かすとともに協力して、互いに学び合い切磋琢磨する関係や教育環境の充実を図る。

◇生徒の発達段階に応じたかかわりと支援を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前にいる生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを確かめ合い、持続性のある対応を共有する。

◇保護者への理解と支えを深めるとともに自立を促す

教職員スタッフは、学校評価や日々の保護者との丁寧な交流を通して、保護者自身の困りへ

の理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を促す。

2. 「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進し、「自ら律する力」を高める教育の充実。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の伝統をつなぐ

確かな人権感覚に基づいた教育活動を発展させ、安心して学び・遊べる環境(枠組み)を守るとともに、「ヒューマン・タイム」を中心に各教科及び領域の中で、対話を通じて共に学び合い、お互いの生き方や価値観の違いを認め合う教育を実践する。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

洛風をよりよくする会の活動など、様々な行事や取組、日常の生活の中で、生徒自らが主体的に、納得して行動する場を継承し、自信と勇気、チャレンジする意識を高める。

◇生活習慣の確立させる

心身の健康の保持増進を目指して、正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活の維持、増進に取り組む。

◇正しい情報モラルを定着させる

不用意な発信等により他者を傷つけないように、正しい判断力を身につけさせるとともに、誰もが安心できる学校生活を守る。

3. 「自ら学ぶ力」を高め、基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする教育の推進。

◇自ら学ぶ意欲を高める

日々の学習指導、評価や「学習確認プログラム」等を活かし、一人一人の生徒の学力や学びの実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫し、生徒自らが学ぶ意欲を高める。

◇基礎学力を定着させる

学力向上委員会や研修等で、授業の進め方や対応の工夫を共有できる機会を増やし、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にした授業の充実を図る。また、個々の学力の向上にむけた手だけの工夫をする。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、生徒一人一人が自分に見合った進路展望につながるよう家庭学習による自学自習の習慣化を図る。

令和2年度の重点目標 「人みな美しき種あり—自信を取り戻す学習の実践」

- ・自己をありのままに認める心を育てる。
- ・自らの言葉で語ることのできる言語力を育てる。
- ・自分らしく生きることが出来る力を育てる。

1. 様々な困りごとを持つ生徒の役に立つ学校として、「他立的自律」「自己指導力」の考え方に基
づいた教育活動の推進。

◇よりよい仲間として協働し、子ども達の学びの土台を強化する

教職員スタッフは、各自の持ち味を最大限に生かすとともに協力して、互いに学び合い切磋琢磨する関係や教育環境の充実を図る。

◇生徒の発達段階に応じたかかわりと支援を共有する

教職員スタッフは、「今、目の前にいる生徒にできることは何か」「できないことは何か」について考え、行動し、互いに思いを確かめ合い、持続性のある対応を共有する。

◇保護者への理解と支えを深めるとともに自立を促す

教職員スタッフは、日々の保護者との丁寧な交流や学校評価を通して、保護者自身の困りへの理解を深め、支援する。同時に、保護者の主体的な最大限の努力を促す。

2. 「豊かな心」と「健やかな体」を養う取組を推進し、「自ら律する力」を高める教育の充実。

◇生活習慣の確立させる

心身の健康の保持増進を目指して、正しい食事や運動・睡眠など調和のとれた生活の維持、増進に取り組む。

◇確かな人権感覚に基づいた学校風土の伝統をつなぐ

安心して学び・遊べる環境(枠組み)を守るとともに、確かな人権感覚に基づいた教育活動を発展させ、「ヒューマン・タイム」を中心に各教科及び領域の中で、対話を通じて共に学び合い、お互いの生き方や価値観の違いを認め合う教育を実践する。

◇主体的な活動の充実と自己肯定感の向上を図る

「洛風をよりよくする会」の活動など、様々な行事や取組、日常生活の中で、生徒自らが主体的に、納得して行動する場を継承し、自信と勇気、チャレンジする意識を高める。

◇正しい情報モラルを定着させる

不用意な発信等により他者を傷つけることがないように、正しい判断力や行動力を身につけさせるとともに、誰もが安心できる学校生活を守る。

3. 「自ら学ぶ力」を高め、基礎学力の充実を図り、進路展望を確かなものにする教育の推進。

◇自ら学ぶ意欲を高める

日々の学習指導、評価や「学習確認プログラム」等を活かし、一人一人の生徒の学力や学びの実態を把握し、それぞれに応じた学習の手だてを工夫し、生徒自らが学ぶ意欲を高める。

◇基礎学力を定着させる

学力向上委員会や研修等で、授業の進め方や対応の工夫を共有できる機会を増やし、身につけさせたい力、学習の「めあて」を明確にした授業の充実を図る。また、生徒の特性や困りを理解し、個々の学力の向上にむけた手だけの工夫をする。

◇進路展望を見据えた学習の習慣化を図る

個々の生徒の「困りごと」に配慮しながら、生徒一人一人が自分に見合った進路展望につながるよう家庭学習による自学自習の習慣化を図る。

4. 職員数(職種職員数、転出入職員数)に関する事項(各4月1日現在)

年度	校 長	教 頭	教 諭	常勤講師	非常勤講師	養護教諭	事務職員	専門主事	ス ク ー ル カウンセラー	合 計
16	1名	1名	5名	2名	6名	1名	1名	1名	5名	23名
17	1名	1名	6名	4名	4名	1名	1名	1名	3名	22名
18	1名	1名	7名	3名	4名	1名	1名	1名	3名	22名
19	1名	1名	7名	4名	3名	1名	1名	1名	3名	22名
20	1名	1名	7名	4名	3名	1名	1名	1名	3名	22名
21	1名	1名	7名	4名	3名	1名	1名	1名	3名	22名
22	1名	1名	6名	5名	3名	1名	1名	1名	3名	22名
23	1名	1名	6名	5名	3名	1名	1名	1名	2名	21名
24	1名	1名	9名	2名	3名	1名	1名	1名	2名	21名
25	1名	1名	9名	1名	3名	1名	1名	1名	3名	21名
26	1名	1名	9名	1名	3名	1名	1名	2名	3名	22名
27	1名	1名	11名	1名	2名	2名	1名	2名	3名	23名
28	1名	1名	10名	2名	2名	1名	1名	2名	3名	23名
29	1名	1名	11名	1名	2名	1名	1名	2名	3名	23名
30	1名	1名	12名	1名	2名	1名	1名	1名	3名	22名
年度	校 長	教 頭	教 諭	常勤講師	非常勤講師	養護教諭	事務職員	専門主事	SC.SSW	合 計
R1	1名	1名	12名	0名	2名	1名	1名	1名	4名	23名
R2	1名	1名	11名	1名	0名	1名	1名	1名	4名	21名

5. 生徒数(学年別・学級別・男女別)

(平成16年度)

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	2名	2名	4名	
2年1組	8名	14名	22名	
3年1組	8名	11名	19名	
	18名	27名	45名	

(平成17年度)

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	1名	0名	1名	
2年1組	3名	10名	13名	
3年1組	13名	19名	32名	
合 計	17名	29名	46名	

(平成18年度)

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	1名	1名	2名	
2年1組	9名	6名	15名	
3年1組	10名	14名	24名	
	20名	21名	41名	

(平成19年度)

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	2名	1名	3名	
2年1組	2名	7名	9名	
3年1組	11名	12名	23名	
	15名	21名	35名	

(平成20年度)

学年・組	男 子		女 子		合 計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年1組	4名	5名	4名	6名	8名	11名	
2年1組	5名	7名	4名	8名	9名	15名	
3年1組	7名	7名	10名	10名	17名	17名	
	16名	19名	18名	24名	34名	43名	

(平成21年度)・・・この年は後期転入学生徒の募集はありませんでした。

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	0名	2名	2名	
2年1組	8名	8名	16名	
3年1組	8名	16名	24名	
	16名	26名	42名	

(平成22年度)

学年・組	男 子		女 子		合 計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年1組	0名	0名	3名	1名	3名	4名	
2年1組	5名	5名	3名	5名	8名	10名	
3年1組	11名	16名	11名	16名	22名	27名	
	16名	21名	17名	22名	33名	43名	

(平成23年度)

学年・組	男 子		女 子		合 計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年1組	1名	1名	3名	3名	4名	3名	
2年1組	1名	3名	8名	10名	9名	13名	
3年1組	10名	11名	10名	11名	20名	21名	
	12名	15名	21名	24名	33名	37名	

(平成24年度)

学年・組	男 子		女 子		合 計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年1組	0名	0名	2名	2名	2名	2名	
2年1組	1名	1名	5名	9名	6名	10名	
3年1組	14名	14名	16名	16名	30名	30名	
	15名	15名	23名	27名	38名	42名	

(平成25年度)

学年・組	男 子		女 子		合 計		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1年1組	1名	3名	0名	0名	1名	3名	
2年1組	6名	7名	5名	6名	11名	13名	
3年1組	5名	5名	19名	19名	24名	24名	
	12名	15名	24名	25名	36名	40名	

(平成26年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	3名	5名	8名	
2年1組	7名	6名	13名	
3年1組	12名	14名	26名	

	22名	25名	47名	
--	-----	-----	-----	--

(平成27年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	4名	8名	12名	
2年1組	7名	8名	15名	
3年1組	14名	15名	29名	
	25名	31名	56名	

(平成28年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	2名	3名	5名	
2年1組	5名	12名	17名	
3年1組	13名	17名	30名	
	20名	32名	52名	

(平成29年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	3名	2名	5名	
2年1組	5名	7名	12名	
3年1組	5名	23名	28名	
	13名	32名	45名	

(平成30年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	4名	2名	6名	
2年1組	5名	4名	9名	
3年1組	8名	21名	29名	
	13名	32名	44名	

(令和元年度) 後期募集なし

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	4名	5名	9名	
2年1組	4名	5名	9名	
3年1組	8名	14名	22名	
	16名	24名	40名	

(令和2年度)

学年・組	男 子	女 子	合 計	
1年1組	3名	2名	5名	
2年1組	6名	7名	13名	
3年1組	12名	13名	25名	
	24名	23名	43名	

6. 進路状況 平成16年～平成31(令和元)年度

年度	平成16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年度		
																人数	%	%
私立 全日制高校・専門	8	13	10	9	5	10	12	10	14	5	9	5	6	7	10	3	13.6%	33.6%
私立 定時制・通信制・単位制	6	11	5	9	7	9	14	7	10	15	6	7	11	7	13	14	63.6%	37.3%
公立 全日制	0	0	4	4	2	1	1	2	3	2	5	3	2	5	2	0	0.0%	8.9%
公立 定時制・通信制	2	6	3	1	2	2	0	1	1	2	6	12	11	7	3	4	18.2%	15.6%
家業・その他	3	2	2	0	1	2	0	1	2	0	0	2	0	2	1	1	4.5%	4.7%
合計	19名	32名	24名	23名	17名	24名	27名	21名	30名	24名	26名	29名	30名	28名	29名	22名		405

7. 主な行事

- 4月 ◇着任式・始業式
◇前期体験入学
- 5月 ◇前期転入生登校日
◇ごみゼロの日
- 6月 ◇わくわくドキドキオリエンテーション合宿
◇授業参観・PTA総会
- 7月 ◇夏らしい行事
- 8月 ◇夏季学習会
- 9月 ◇3年修学旅行

平成17年度 信州 飯田 駒ヶ岳方面 愛 愛知博 方面
 平成18年度 東京ディズニーランド 都内観光
 平成19年度～22年度 信州 姫木平 女神湖 方面
 平成23年度～25年度 徳島 南阿波 穴喰 方面

平成26年度 信州 黒部・白馬方面
平成27・28年度 徳島 かずら橋 香川 琴平 方面
平成29年度 信州・白馬方面
平成30年度 徳島 穴喰 琴平 方面
平成31年度 信州・白馬方面
令和2年度 信州・白馬方面

◇後期体験入学 26年度以降 前期で定員を満たしたため、実施なし

◇ファイナンスパーク学習

10月

◇前期授業終了

◇後期開始・転入生登校日

◇1、2 年秋の校外学習

◇創立記念行事 *平成21年度より卒業生を迎えての講演

11月

◇秋パーティ

12月

◇科学センター学習

◇3年冬季スタディング 堀川高校本能寺館 本校

*平成23年度まで冬山スタディング(花背山の家)

1月

◇生き方探究チャレンジ体験

2月

◇洛風のあかり展

3月

◇卒業式

◇後期修了式

◇離任式 (令和元年度 中止)

8. 研究学校の指定・研究発表に関する事項

平成19年度 研究紀要「洛風のKiseki」発行

平成23年度 人権教育研究指定校事業(文部科学省)

平成24年度 第64回全国人権同和教育研究大会 岡山大会 分科会発表

平成26年度 部落解放研究大会第48回全国集会 京都大会 分科会発表

「京都市立洛風中学校のKiseki(創立10周年を迎えて)実践報告会

9. 学校に対する表彰に関する事項

平成21年度 京都市教育功労賞 学校表彰

第25回教育奨励賞 努力賞(時事通信社)

10. 校地の設定・拡張・校舎の設定・増改築等に関する事項

平成17年度 冷水器設置
平成18年度 屋上の整備
平成19年度 風力・太陽光発電装置設置
平成22年度 校歌木彫ボード完成

*卒業制作 17年度 木製ベンチ
18年度 布製ノートパソコンケース
19年度～21年度 木製校歌ボード
22年度 木製各部屋表示板
23年度 木製ウイング表示プレート
24年度 木製日直表示板カレンダー
25年度 陶板 風に舞うリーフ 校歌を刻んで
26年度 陶板 風に舞うリーフ 校歌を刻んで
27年度 陶板 風に舞うリーフ 校歌を刻んで
28年度 陶板 風に舞うリーフ 校歌を刻んで
29年度 風に揺れる木彫リーフ と ワークスペースのサインボード
30年度 風に揺れる木彫リーフ 校歌を刻んで
令和元年度 風に揺れる木彫リーフ 校歌を刻んで

11. 寄付受納に関する事項

平成17年度

◇国際ソロプチミスト京都平安より 木製作品収納棚

平成18年度

◇国際ソロプチミスト京都平安より 書架および図書

◇近藤潤氏より 花器(陶器)

◇坪井清遊会より 屋上整備(ゴムタイル敷き)

平成19年度

◇国際ソロプチミスト京都平安より 書架 閲覧用木製テーブル・椅子

平成21年度

◇加藤山崎教育基金 大型プリンタ

◇国際ソロプチミスト京都平安より 木製掲示板・調整機能付き

平成26年度

◇洛風中学校PTAより 10周年記念 木製飾り棚